(公表用様式)

業務再点検結果報告

組織名	大臣官房食料安全保障課	連絡先	03-6744-2395
所管する 業務の概要	穀物の需給状況等の把握・予測業務に関すること、不測時を含めた食料安全保障に関すること、食料自給率の目標の設定・達成に向けた取組に関すること。		

1. 基本的な心構え・行動

- ・現在行っている取組や工夫
- ○親切、丁寧な説明、消費者団体等関係者への積極的な説明 等に努めている。
- ○食料自給率向上に関し、課員が「見たこと」、「聞いたこと」、「感じたこと」を「こくさん通信」として農林水産省のホームページに公開し、幅広く情報提供を実施。また、この取組に対し、国民から意見、コメントを頂く工夫をしている。
- ・点検によって得られた課題とその改善策

2. 政策・事業等の企画立案・推進

- ・現在行っている取組や工夫
- ○生産額ベースの食料自給率について、各国比較を行っていないなどの国民からの問い合わせを踏まえ、できるだけ満足してもらえる情報提供となるよう、一定の前提の下で各国比較の試算を行う方向で検討。
- ○食料自給率を向上させることに注力し、その基礎である食料自給力を強化することにつながっていないのではないかと

・点検によって得られた課題とその改善策

いった指摘がある。よって、単に食料自給率を公表するだけ ではなく、これを補完する生産力に関する指標の検討、食料 自給率の変動の要因分析の充実等、食料自給率の見える化を 推進。

- ○食料自給率については、例年公表をするのみであったが、 食料自給率の変動要因について地方組織、消費者団体などを 摘があり、この指摘を踏まえ、分かりやすい説明資料を作 対象に説明会を実施し、透明性を図る取組を実施。
- ○地方組織から情報提供が適切になされていないと指摘がある○9月中旬には地方組織とのテレビ会議を開催し、地方に ったこと等を踏まえ、「フード・アクション・ニッポン地方」おける推進のあり方についての意見交換を行い、その場で 推進の手引き」の作成を進めている。
- ○食品産業事業者等における事業継続計画策定を推進するた ┃ ○地方組織を通じて行っている情報提供に対して、更に効 め、地方農政局等地方組織を通じて説明会を実施。
- ○食品産業事業者等から事業継続計画策定上の問題点・意見□○事業者等に対して、わかりやすい資料の作成に努め、意 等に関する情報収集を実施。今後の更なる推進のため、その┃見を出してよかったと言っていただけるような情報提供を 対応策等について、ホームページ等を通じて情報提供するこ 行う。 とを検討。
- ○家庭における食料品備蓄について、地方組織を通じて消費 者団体等に情報提供し、その普及を推進。
- ○食料・農業・農村基本計画の策定作業において、食料自給 ○生産サイド、消費サイドを所管する局庁がそれぞれの立 率目標策定にかかる関係局庁からのヒアリングを実施
- ○国際的な食料需給に関する情報の提供に際し、最新情報を タイムリーに提供することに努めると共に、関心が高いと思□層の充実を図るため、これらに関する様々な情報の収集に われる事項を特集するなど積極的な情報発信を実施。

- ○食料自給率の説明資料について、わかりにくいなどの指 成し、検証する予定である。
- の意見を踏まえ、手引き案に反映させる。
- |果的な方策について地方組織からの意見も収集し、現場に おける情報把握に努める。

- 場から食料自給率目標策定に向けて施策を検討。必ずしも |両サイドの施策が整合していないことから、両サイドの主 張のマッチングを図っているところ。
- ○食料安全保障に係るリスクに関する情報について、一 取り組む。

3. リスク管理

・現在行っている取組や工夫

○近年、グローバル化の進展、食料品の生産流通の複雑化等に対応して、フードチェーン(生産から流通、消費まで)の各段階において食料の安定供給を不安とする様々なリスクが生じるおそれが出てきており、どのようなリスクがあるかの洗い出しに取り組んでいる。

○食料の安定供給に対するリスクに対する対策の検討のため、本年の「日照不足・低温等対策連絡会議」に参画し、状況を把握。

・点検によって得られた課題とその改善策

○このようなフードチェーンにおける多様なリスクを踏ま えた新たな食料安全保障の検討を進めている。

○引き続き、食料の安定供給に対する多様なリスクに対して状況の把握を実施。

4. その他の重要な取組

・現在行っている取組や工夫

○食料自給率向上対策室では、本年度 7 月までの間、残業が 多かったことを踏まえ、室内での議論を通じ、業務スケジュ ールを見直すなど、効率的な仕事の遂行のための項目を整理 し、9 月より実行している。 ・点検によって得られた課題とその改善策

○当面、左記事項を継続しつつ、毎月更なる改善の必要性について室内で議論していく。